

2 野菜かよい容器の意義と定着適用の条件

1. 背景と特徴

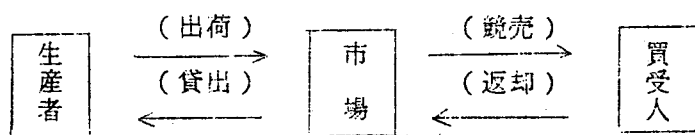
昭和48年から49年にかけての石油ショックで農業関係の資材価格は軒なみ高騰し、野菜の出荷経費に大きな割合を占めているダンボール箱、ビニール袋等の包装、容器代も例外ではなく、農家に対して出荷経費増、手取額減少という事態を招いたことは記憶に新しいところである。このような出荷経費の増加への対応策として、全国各地に反復して利用できる「かよい容器」の適用事例がみられるようになり、農林省においても「野菜輸送合理化事業」として51年度から事業化される予定になっている。この「かよい容器」は上述のような省資源、出荷経費の合理化だけでなく地場野菜の供給安定のための一つの手段としても考えられるべきである。今回これまでの調査からこの二つの意義と定着条件および適用条件を明らかにしたので、将来県内でも適用が試みられる可能性を考慮して指導上の参考に供するものである。

2. 内 容

(1) かよい容器の形状

- ① 材 質 プラスチック
- ② 大きさ(標準) 66.0 cm × 47.5 × 33.0

(2) かよい容器の流通形態



(3) 適用品目

附表参照

(4) かよい容器の意義

① 生産者

○ 出荷経費の節減

ダンボール箱120円(15K入)、ポリ袋+0~50円。

かよい容器利用料 5~40円

○ 出荷労力の軽減

通常の箱詰の3分の1

○荷扱いが容易

圃圃場へ持ちこんでそのまま詰めこみができる(雨の日でも可)

② 市場

○規格の統一性

量目が統一される

○取引の簡易化

かご容器ごとのまとまった取引となり小分けする必要なし

廃棄物の減少、大型店へ配送が容易

○売場の立体的活用

積み重ねができるので場所をとらない。

③ 買受人

○鮮度保持

通気性に富むことと、入れ換えをする必要がないため鮮度がよい。

○荷扱いが容易

つめかえる必要なし、そのまま店頭に出せる

○荷傷みが少ない

④ かよい容器利用上の欠点

○転送がきかない

○ダンボール箱と比較してトラックに量的に積載できない。

(5) 定着、適用の条件

① 転送のない地場流通市場であること。

容器の形態からして輸送距離が長く、介在者が多くて容器回収に長時間を要し、かつ困難な集散市場への適用は不可能で、流通型態が単純、簡単な地場市場に限定すべきである。

② 効率的な負数管理体制を確立すること。

この流通システムの成否の鍵は負数管理にある。紛失を防止し、効率的に管理するには、利用範囲を限定し、貸出時間も設定する必要がある。

また、出荷依頼も独自のものを用意すればより効果があがる。

③ 単なる省資源、経費節減としてとらえるだけでなく、地場野菜流通の今後のあり方の一環として位置づけを明確にしてとり組むこと。

近年、供給のうえから地場野菜のもつ重要性が認識されはじめている。

「かよい容器」はこのような地場野菜の供給安定をはかる一手段として、すなわち省力化と経費節減を通して経営を安定させて、生産拡大をはかり、またこれを手がかりとして生産の組織化をすすめるなど、地場野菜振興の手段としての位置づけを明確にしてとりくむ必要がある。

このことは市場側からみると生産農家との結びつけを強め、供給の安定化をはかることができるといった効果も期待できる。

3. 普及上の留意点

- (1) 当初は利用者、適用品目を限定して、漸進的に可能な範囲から進めてゆくことが大事である。
- (2) この流通システムを中心となるべきところは市場であるが、単純試算では、市場側にメリットが少なく、このシステムをとり入れるに当っては、地場野菜生産の維持拡大という地場野菜振興の大局的な観点からの理解を得ることが重要である。
- (3) 適用にあたっては、実施主体をどこにおくかが問題となる。現状では市場（卸売人）、農協、農協が所有して市場に委託する、の三つの形がとられている。一般的にいうと利用者が少人数の場合は市場、利用者が多い場合は農協が所有して市場に委託する例が多いが、実際の適用に際しては、市場および生産、流通の諸条件を考慮して十分に検討を加える必要がある。

4. 調査成績の概要

(1) 調査課題名

野菜の安定供給対策に関する調査（厚生授産課委託）

地場野菜の計画出荷に関する調査（農業経済課委託）

(2) 調査年次 49年、50年

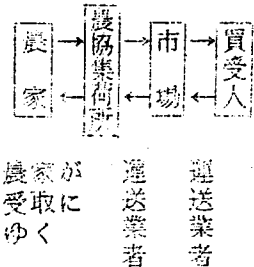
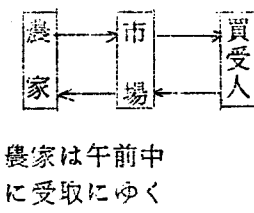
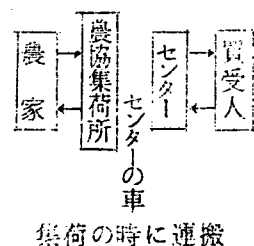
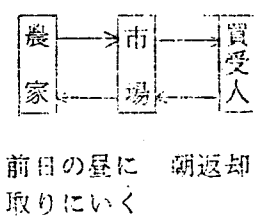
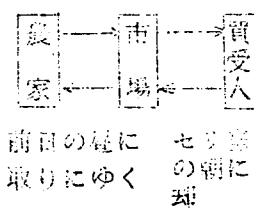
(3) 調査方法 聞取調査 附表参照

(4) 調査結果報告書

50年3月 岩手農試資料49-1620 野菜の安定供給対策に関する調査

附表：かよい容器調査事例一覧

種類	項目 実施主体	出荷対 象市場	容器の形態 および個数	開 始 年 次	製 産	流 通 範 囲	利 用 料		
							生 産 者	買受人	そ の 他
農林省野菜包装合理化実験事業	一宮町農協 (千葉)	東京都 中央卸 売市場	プラスチック 6,160個	49年	事業指定	広 域	利用料 36円 回収協力 金 50円 回収運賃 10円		
	青山市農協 (岐阜)	高山市 公設地 方卸売 市場	プラスチック 3種類 8,000個	50年	生産者の 要望	準広域	20円		延滞料紛 失補償は 未定
全容器開 発実験事 業 （かよい）	大和生鮮食 品集記セン ター (神奈川)	同 左	プラスチック 5,000個	48年	菜物集荷 対策上	準広域	40～20円		
県 単 事 業	茨城県青果 物地方卸売 市場協会 (茨城)	水戸市 公設地 方卸売 市場	プラスチック 1,500個	50年	事業指定	地 場	5円	2円	延滞料 20円/日 紛失補償 820円
独 自	今渡青果地 方卸売市場 (岐阜)	同 左	プラスチック プラスチック 2,270個	44年	組合長の 発案	地 場	5円	2円	延滞料 20円/日 (両者 とも)

適用品目	回転 日数	備 格	流通システム	評 価		
				生 産 者	市 場	買 受 人
きゅうり	7～ 8日	ダンボールものより安い時が多かった。		○出荷労力の軽減		
きゅうり、とまと、ほうれんそう、かぶ、にんじん、きゃべつなど 計26品目	6日	おおむね高い		○出荷労力の軽減 ○雨の日でも収穫可能	○規格の統一性	○美観 ○雨に対して強い
ほうれんそう	5日	おおむね高い		○包装費の節減 ○容器確保の心配がなく出荷が計画的	○計画安定取引可能	○鮮度
はくさい、きゃべつ、ほうれんそう、かぶ、レタス、カリフラワー、スイートコーン	3日	おおむね高い		○出荷労力の軽減 ○出荷経費の節減	○農家と密着した安定的供給確保 ○売場の立体的有効利用 ○上場単位の簡略大型化 ○出荷数量の事前把握	○鮮度 ○荷扱いが容易
きゅうり、とまと、ほうれんそう、かぶ、にんじん、きゃべつなど 計26品目	2日	おおむね高い		○包装費の節減 ○出荷労力の軽減 ○荷扱いの容易さ	○取引の簡易化 ○売場の立体的利用可能	○鮮度 ○荷扱いの容易さ

種類	項目 実施主体	出荷対 象市場	容器の形態 および個数	開 始 年 次	契 機	流 通 範 囲	利 用 料		
							生 産 者	買受人	そ の 他
独	釜石青果地 方卸売市場	同 左	木製半切箱 5,000～ 10,000個	3 2 年	習 慣	地 場	25円	紛失補 償 80円	
自	宮古青果地 方卸売市場	同 左	木製半切箱 6,000～ 7,000個	3 4 年	習 慣	地 場	20円	20円	

注 (1) 茨城県の事例の実施主体は実質的には、同協会に加入している水戸市場の二つの卸売会

(2) 流通範囲において、高山の事例は供給範囲が飛騨一円（消費人口約10万人）で補完市
 であるため準広域を規定している。

(3) 価格の高い安いはダンボールものの同一品目との比較である。

(4) このうち千葉県の事例は規格の厳密さを要求するきゅうりを対象としたため、かよい容
 して、東京市場という集散市場出荷だったため、地場流通にふさわしいかよい容器の
 点が発揮できなかったこともあげられよう。しかし、先進的な農家は今後の野菜出荷合理化

(5) このうち釜石、宮古の県内事例は以前から慣習的な利用の自由使用が基調となるため、
 である。事実、宮古ではプラスチック容器の適用を試みたが回収ができず失敗に終わった。

適用品目	回転 日数	価 格	流通システム	評 価		
				生 産 者	市 場	買 受 人
とまと、きゅうり、ぼれいしょ、ながいも、なす、果実など多数			<p>朝の出荷時に箱を受取る 農協の車は夜の出荷時に受取る</p>	○包装費の節減	○農家の引き止め策	
とまと、きゅうり、果実など多数	5～7日		<p>夜の出荷時に箱を受取る</p>	○包装費節減		○積み加えがなくて楽

社である。

場を二つかかえており、全農の事例に供給範囲は大和市周辺であるが、集荷範囲が栃木県まで及ん

器利用で規格があまくなり、価格がふるわず事例としては失敗例に属する。また他に失敗の要因と

の方向としてこの試みを積極的に評価している。

員数管理的な回収体制が確立しておらず、地場野菜振興対策という観点からの積極的な評価は困難